

一つの空き家からはじまる小さな町の新しいまちづくり

平成31年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：一つの空き店舗から始まる小さな町から拓く新しいまちづくりの実践研究

研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者：見世を始める会 松田直美（洋野町地域おこし協力隊）

研究メンバー：高橋勝利（洋野町企画課）、安藤あさひ（洋野町地域おこし協力隊）

技術キーワード：洋野町、空き家・空き店舗、地域コミュニティ、社会的自己実現

研究の概要（背景・目標）

全国的に空き家・空き店舗の問題が問われている。こうした空き家・空き店舗を問題対象としてのみではなく、地域社会の有効な資源として活用していくことも大事だ。一方で人口減少、少子高齢化の中で地方都市の衰退が危惧される。その危機感の中で人口減少の時代にあった新しいまちづくりが問われる。そこでは地域維持振興と共に、そこに暮らす、関わる人々の個人の思いを実現するという社会的自己実現の意義や形も重要になってこよう。ここでは、洋野町にある空き家活用をテーマ・舞台にして、地元メンバーの暮らしや仕事に対する考えや思いを関係者と共有・協力した、思考・検討、改修作業、イベント実施など今後につなげる一連の活動を報告をする。

研究の内容（方法・経過）

洋野町の空き家（M邸）を対象にしていろいろな協力者と共に活用・改修の検討、具体的な改修作業を行った。その中で作業やイベント等を通じて今後につなげるメンバーの輪を形成していった。またそのことに寄与すべく先進事例や情報も収集した。

学生も作業参加、提案・議論

学生も改修を手伝わせて頂きつつ、地域散策も踏まえ提案・議論も行った。レンタルスペース（カルチャー教室、会議、個展、等）、海をイメージしたカフェ、子ども・高齢者が交わる場、シアター、交流スペース等、興味深い提案が関係者の参考とされた。



事例情報収集



情報収集も。特に家主の思いを発信する場など興味深い。HALUM(東久留米市)は環境・エネルギー問題を問いかける。

一連の活動の様子の一部はヒロノートにも。
<http://hironote-iwate.com/>

個人の思いと皆の協力で取り組んだ改修活用



【物件概要】物件は種市商店街の中央から一歩入り、洋野町役場から徒歩3分程と街中にある。すぐ傍には海も広がる。約80平米の木造平屋建て。住居として使われていた畳敷き空間に、バーとして使われていた空間が併設している。

【試行錯誤の改修作業と広がる仲間の輪】

「この家を廃屋にしておくのは勿体ない」「良いと思うものを皆に届けたい」そんな個人の思いへの共感・協力があつた。みな素人だが、まずは窓掃除から、床改修、壁塗り等少しずつ改修されていった。同時に集まった仲間達のそれぞれそれぞれの思いや考えも反映されていった。



共感・協力広げるこれらに向かうイベント実施

流木のモニュメント、大野の木工やミルク、町内手芸家の作品等、個性的魅力的品々が空間を彩り始めている。この場所を育てていこうと皆の協力のもと手作りイベント「冬あかりのHIRONOBA」は感動的だった。

